

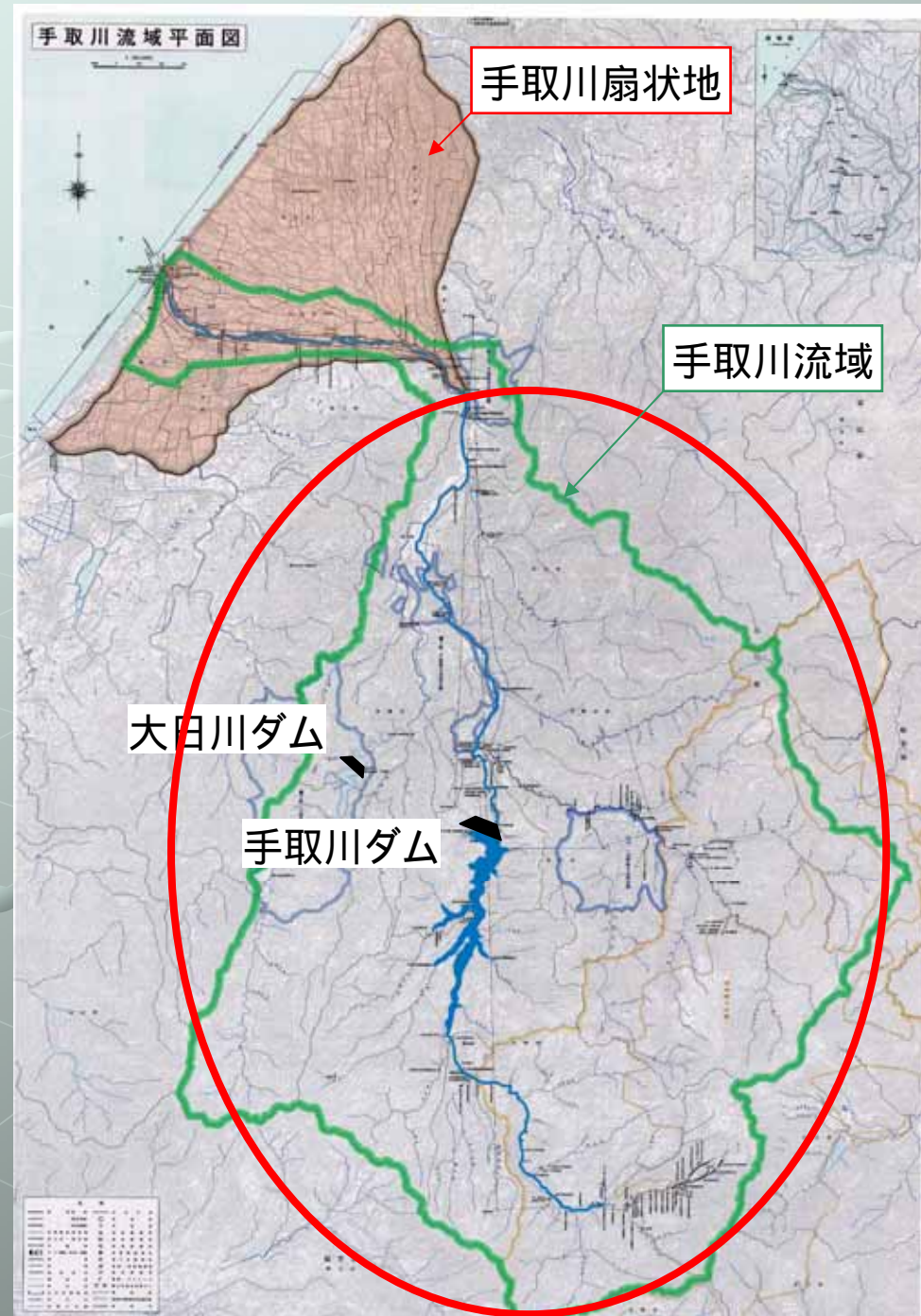
The background of the slide features a 3D perspective of a grid. The grid is composed of thin, light gray lines that recede into the distance. At each intersection of the grid lines, there is a small, light gray sphere. The spheres and lines create a sense of depth, with the elements in the foreground being more distinct and those in the background fading into a light blue gradient.

流域の概要

1.1 上・中流域の概要

上流域の地形地質

- ・ 白山を頂点とした火山性の
大起伏山地となっています。
- ・ 河谷が深く、崩壊が多発し
ています。
- ・ 扇状地を形成する砂、泥、
礫の供給源となっています。



中流域の地形地質

- ・ 第三紀層で構成された小・中起伏山地です。
- ・ 河岸段丘が発達しています。

河岸段丘を流れる手取川

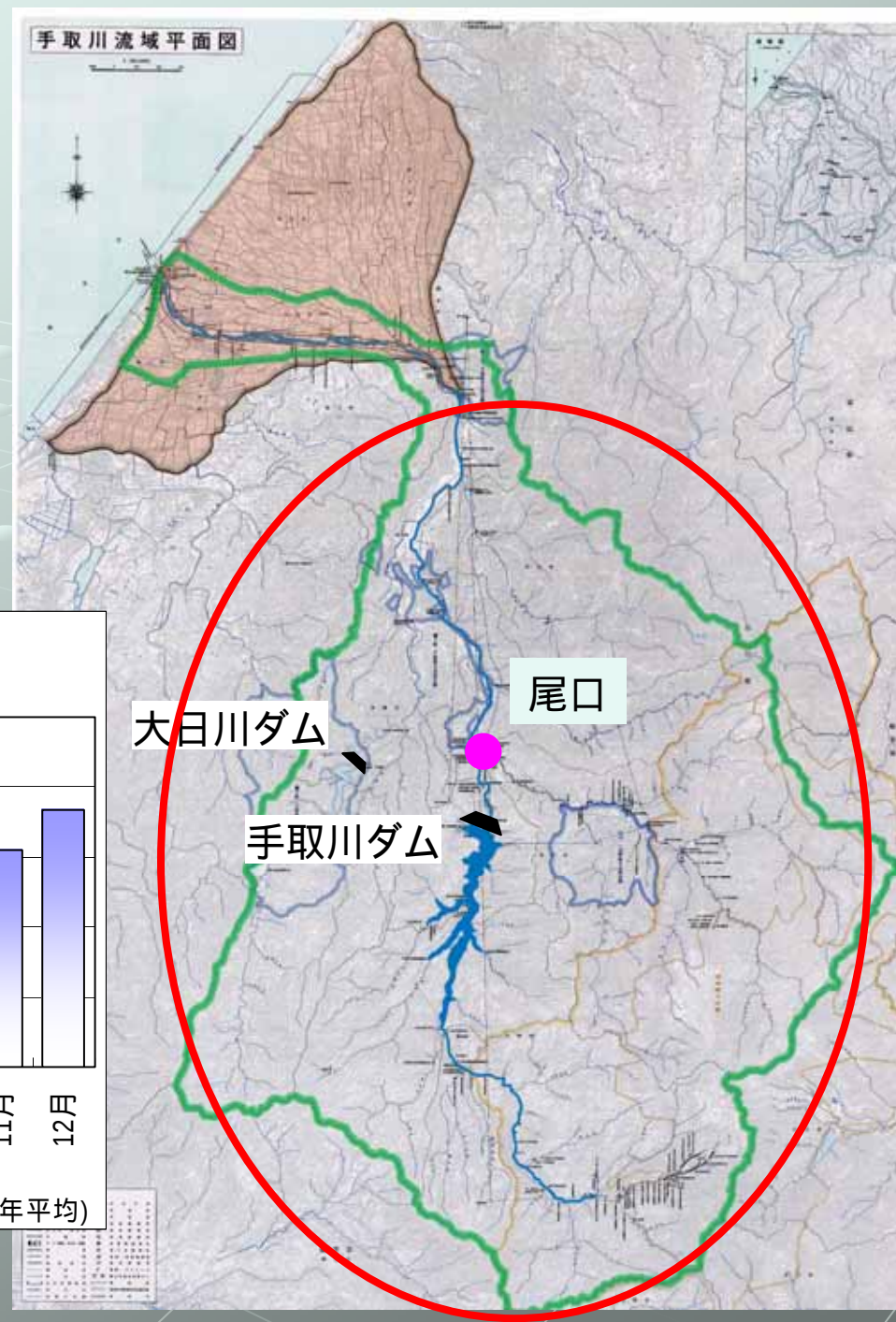
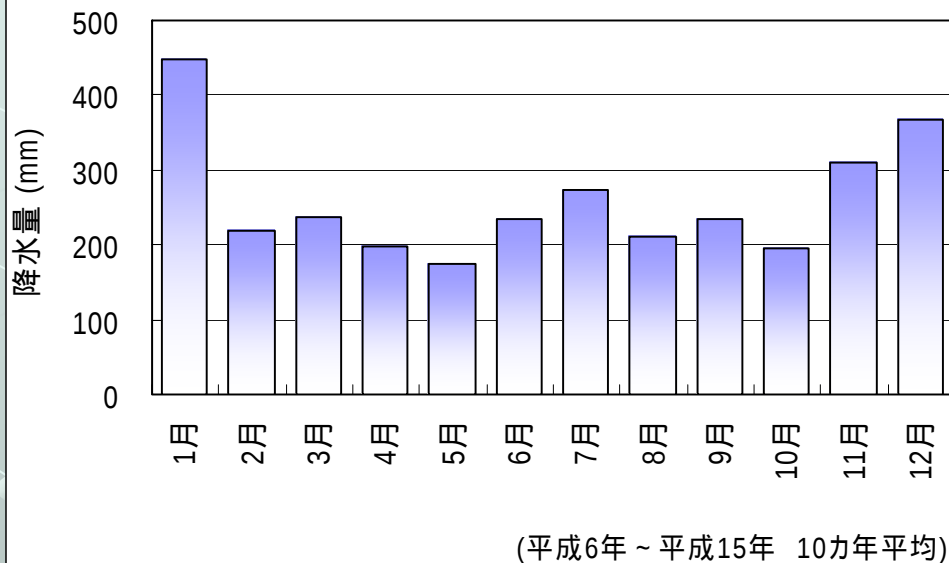


出典：金沢河川国道事務所

上・中流域の降水量

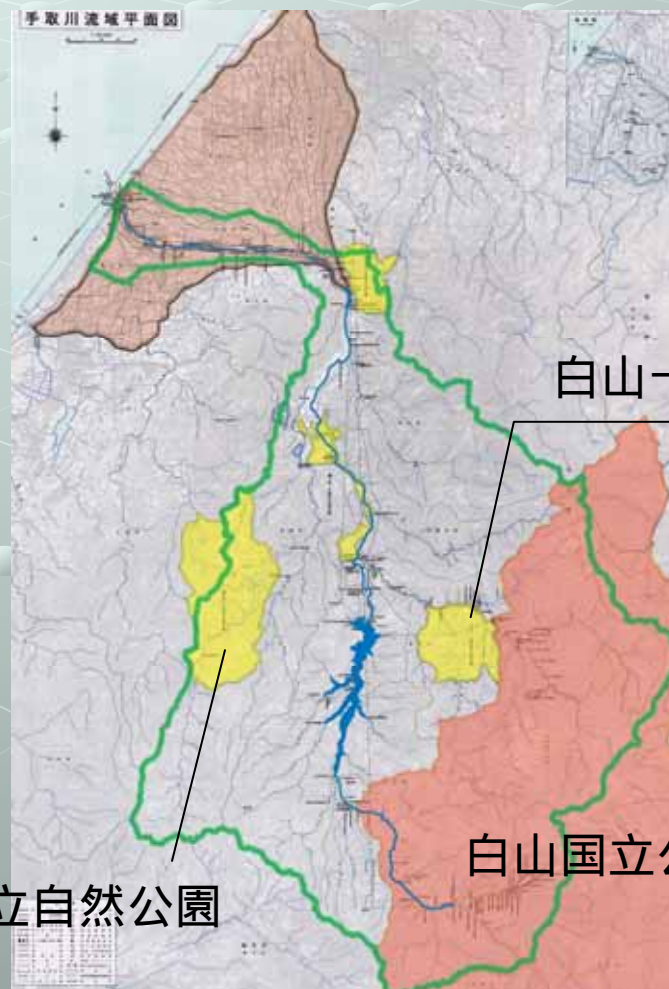
- 降水量は約3000mm/年と多雨地帯です。
- 冬季には山岳部で3mに達する積雪があり、我が国有数の豪雪地帯となっています。

■ 尾口雨量観測所 (出典: 金沢河川国道事務所)



上・中流域の自然環境

➤ 上・中流域は、豊かな自然にめぐまれ、さまざまな動植物の生息域となっており、国立公園や自然公園に指定されています。



獅子吼・手取県立自然公園

白山一里野県立自然公園

白山国立公園



石川県立自然保護センターHP

上・中流域の代表種

➤代表的な生息種を整理すると以下のよう
なものが挙げられます。

赤字は特定種

中流域

植生

岩上・岩隙植物群落

チャボガヤーケヤキ群集

魚類

アブラハヤ

オオヨシノボリ

底生動物

シマトビケラ科

ヒゲナガカワトビケラ科

鳥類

オシドリ

コウライアイサ

陸上昆虫

ツマグロキチョウ

アキアカネ

両生類・爬虫類・哺乳類

アマガエル

カジカガエル

カナヘビ

アオダイショウ

キツネ

イタチ

ダム貯水池周辺

植生

コナラミズナラ群落

スギ植林

魚類

コイ(放流魚)

ギンブナ(放流魚)

底生動物

ミズミズ科

イトミズ科

鳥類

コノハズク

オオコノハズク

陸上昆虫

ツマグロオオヨコバイ

カシルリオトシブミ

両生類・爬虫類・哺乳類

ヒダサンショウウオ

カジカガエル

タカチホヘビ

シロマダラ

カグヤコウモリ

ヤマコウモリ

上流域

植生

(ブナ帯)ブナミズナラ群落

チシマザサブナ群団

(高山・亜高山帯)

コケモモ - ハイマツ群集

(ササ自然草原)

オオシラビソーダケカンバ群落

魚類

ニッコウイワナ

ヤマメ

底生動物

ヒラタカゲロウ科

カワゲラ科

鳥類

クマタカ、イヌワシ

陸上昆虫

ガマヨトウ

カワラゴミムシ

両生類・爬虫類・哺乳類

ハコネサンショウウオ

ナガレヒキガエル

タカチホヘビ、ジムグリ

カモシカ、ツキノワグマ

上・中流域の河川景観や史跡



手取峡谷
(県立自然公園)
(吉野谷村)



桑島の化石壁
(国指定天然記念物)
(白峰村)



百万貫の岩
(県指定天然記念物)
(白峰村)



手取川扇状地



岩間噴泉塔群
(特別天然記念物)
(尾口村)



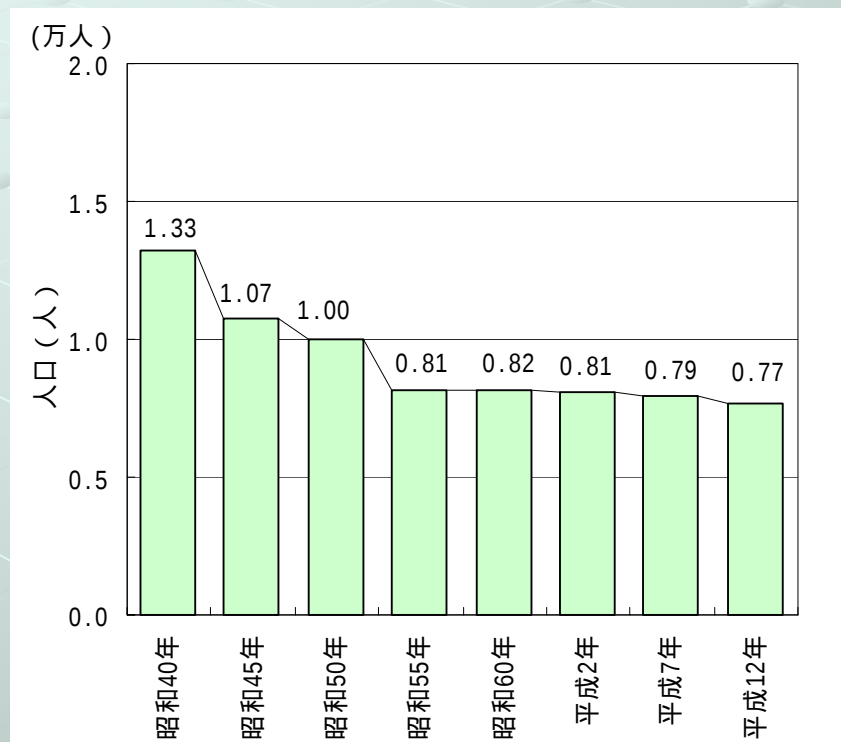
姥ヶ滝
(日本の滝100選)
(吉野谷村)



白山連峰(国立公園)

上・中流域の人口・土地利用

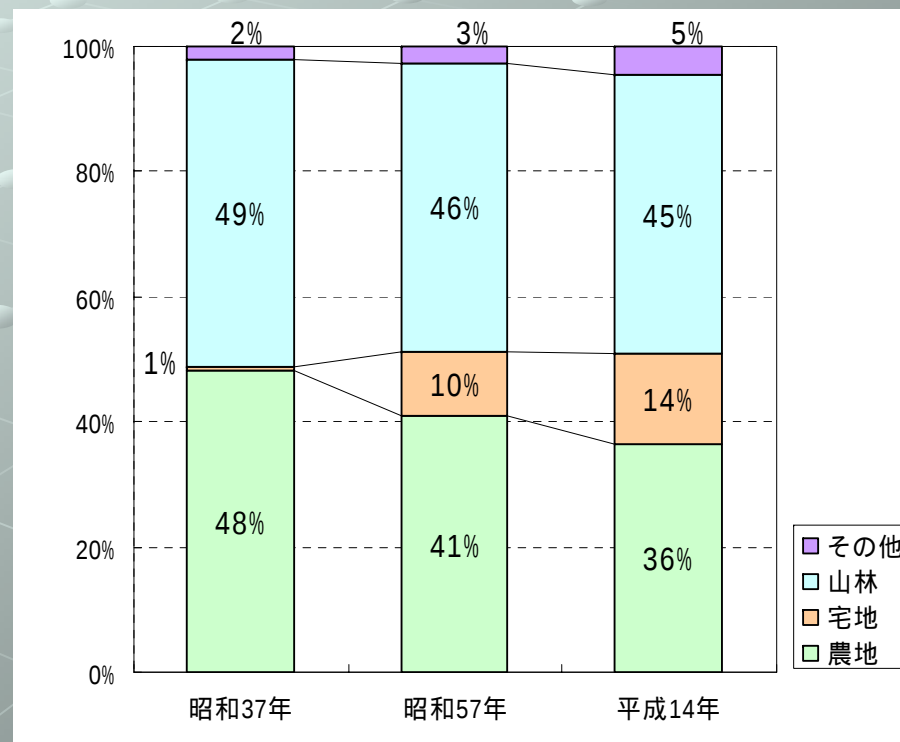
- 人口は約8000人です。昭和55年以降、ほぼ横這いとなっています。
- 手取川流域の土地利用の変化をみると、農地及び山林面積の占める割合は減少しており、宅地の占める割合が増加してきています。



出典:国勢調査

人口の変化

注)手取川上流域の市町村は以下の5村とした。
河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村



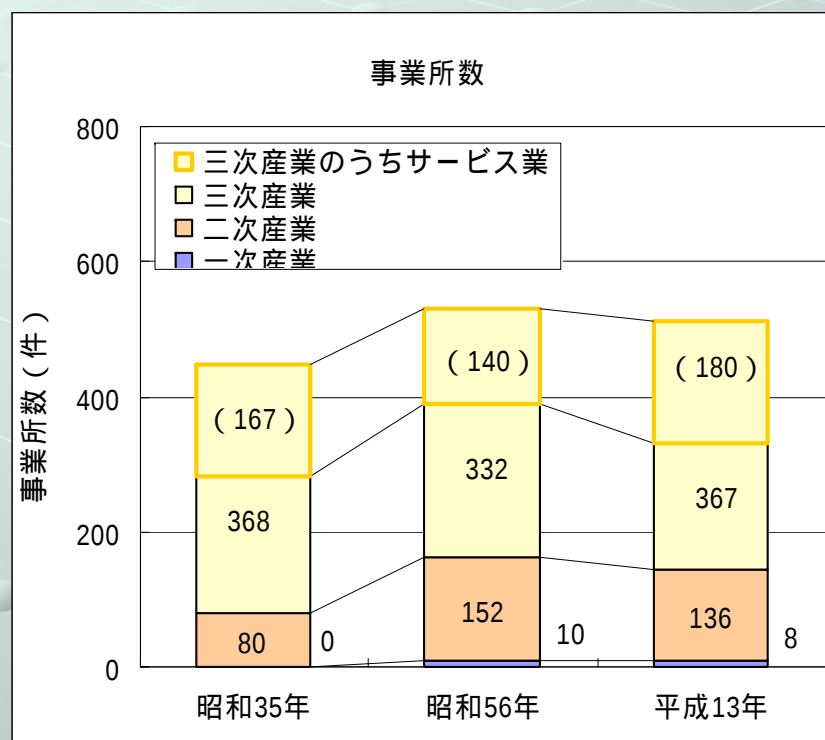
出典:石川県統計書

流域の土地利用の変化

注)過去は2市2郡(小松市,松任市,能美郡,石川郡)で統計処理されているため、流域全体の変化を示した。

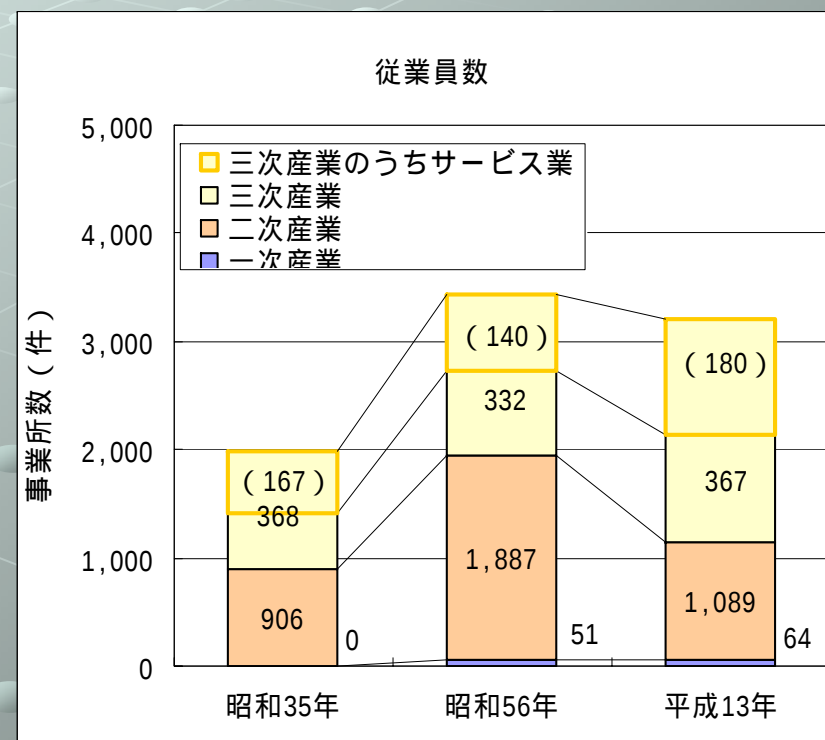
上・中流域の産業

- 上・中流域は、山間部が中心であることから、下流域に比べ、事業所数、従業員数の伸びは大きくありません。
- 事業所数のうち、約33%をサービス業が占めています。



出典: 石川県統計書

事業所数の変化



出典: 石川県統計書

従業員数の変化

1.2 下流域の概要

下流域の地形地質

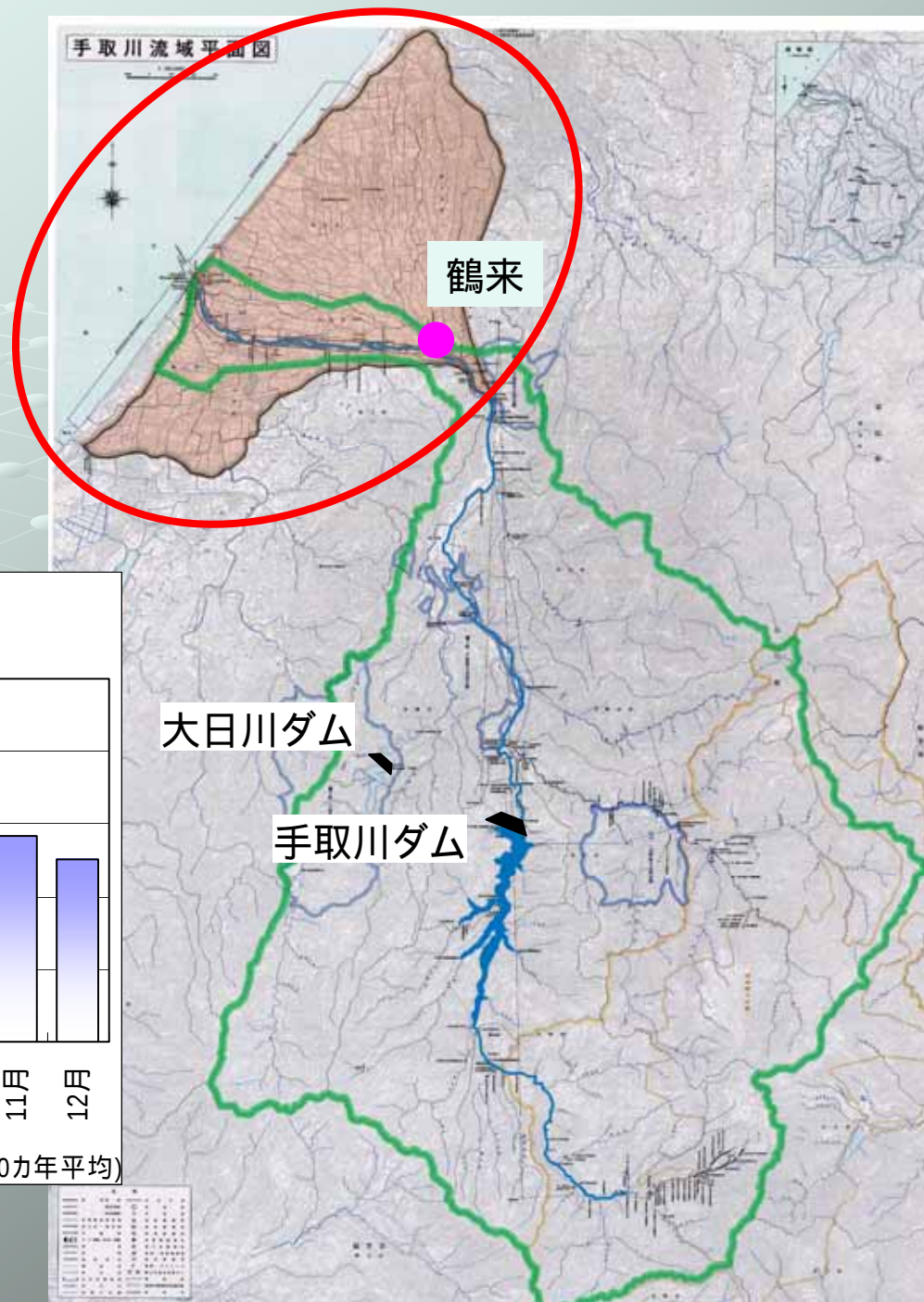
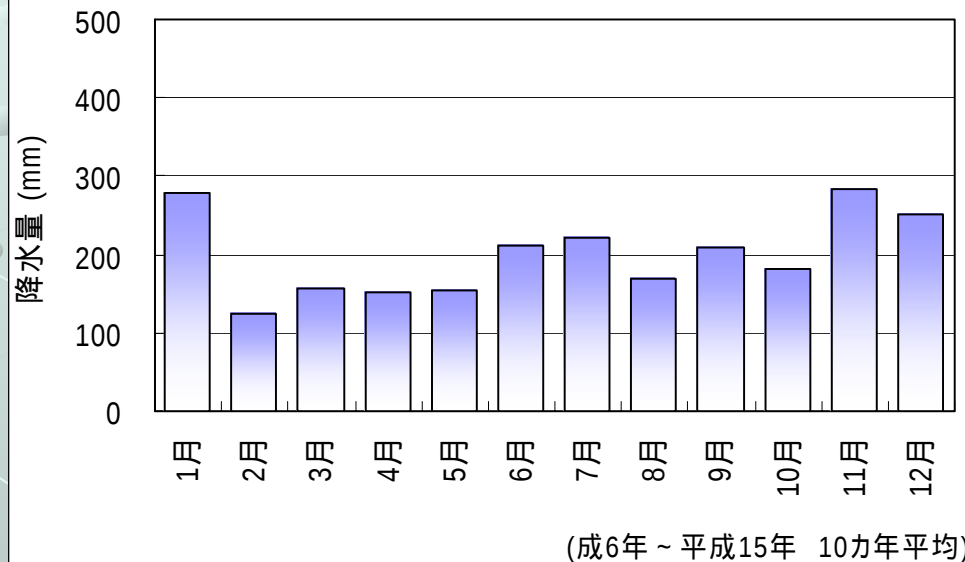
- 手取川の下流域は、鶴来町付近を扇頂とした典型的な扇状地形です。
- 扇状地は礫層が主体であり、泥・砂層が不規則に分布しています。



下流域の降水量

➤手取川流域の年平均降水量は、流域の平野部で約2,500mm/年です。

■ 鶴来雨量観測所 (出典: 金沢河川国道事務所)



下流域の代表種

➤代表的な生息種を整理すると以下の
ようなものが挙げられます。

赤字は特定種

河口

植生

カワヤナギ群落

ススキ群落

魚類

ウキゴリ

ヌマチチブ

底生動物

モノアラガイ

ゴカイ科

鳥類

シロチドリ

コアジサシ

陸上昆虫

ヤナギルリハムシ

ドヨウオニグモ

両生類・爬虫類・哺乳類

アマガエル

カナヘビ

アオダイショウ

アブラコウモリ

ノウサギ

扇状地

植生

カワラヨモギ - カワラハハコ群落

アキグミ群落

魚類

ウグイ

アユ

底生動物

コカゲロウ科

マダラカゲロウ科

鳥類

コチドリ

イカルチドリ

陸上昆虫

カワラバッタ

チャバネキボシアツバ

両生類・爬虫類・哺乳類

ニホンアカガエル

ツチガエル

イシガメ

カナヘビ

カヤネズミ

タヌキ



コアジサシ



コアジサシのひな

下流域の河川景観や史跡



松任C.C.Z



手取川扇状地



水害記念碑



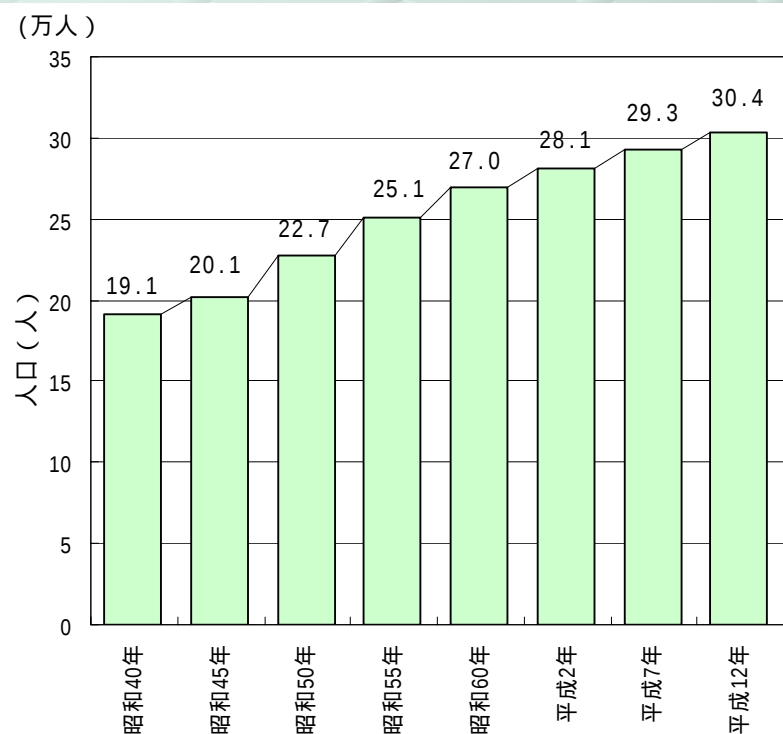
芭蕉の渡し



灯台笹遺跡

下流域の人口・土地利用

- 人口は約30.4万人です。昭和40年以降、徐々に増加する傾向にあります。
- 手取川流域の土地利用の変化をみると、農地及び山林面積の占める割合は減少しており、宅地の占める割合が増加してきています。

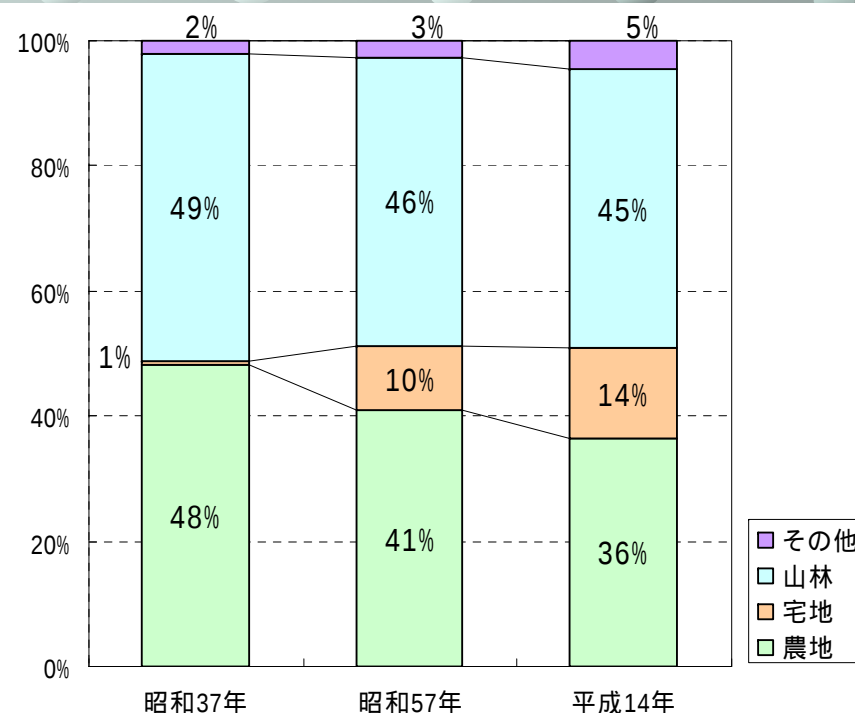


人口の変化

出典: 国勢調査

注) 手取川下流域の市町村は以下の2市7町とした。

小松市、松任市、根上町、寺井町、辰口町、川北町、美川町、鶴来町、野々市町



流域の土地利用の変化

出典: 石川県統計書

注) 過去は2市2郡(小松市、松任市、能美郡、石川郡)で統計処理されているため、流域全体の変化を示した。

下流域の産業

- 伝統産業として、九谷焼(寺井町)、酒造業(鶴来町など)、仏壇(美川町)があります。
- 第二次産業及び第三次産業が発展してきています。事業所数をみると、昭和35年と平成13年を比較すると約1.6倍に増えています。
- 第二次産業の増加は、地下水を利用したビール工場や電子産業が発達してきているためと考えられます。



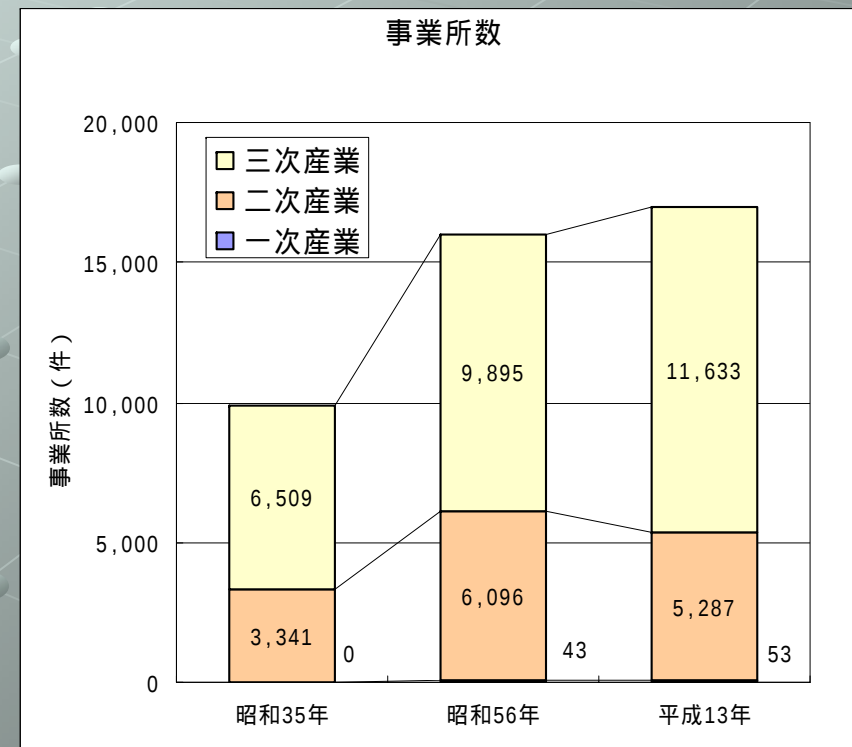
九谷焼(寺井町)



酒造業(鶴来町など)



下流の電子部品工場

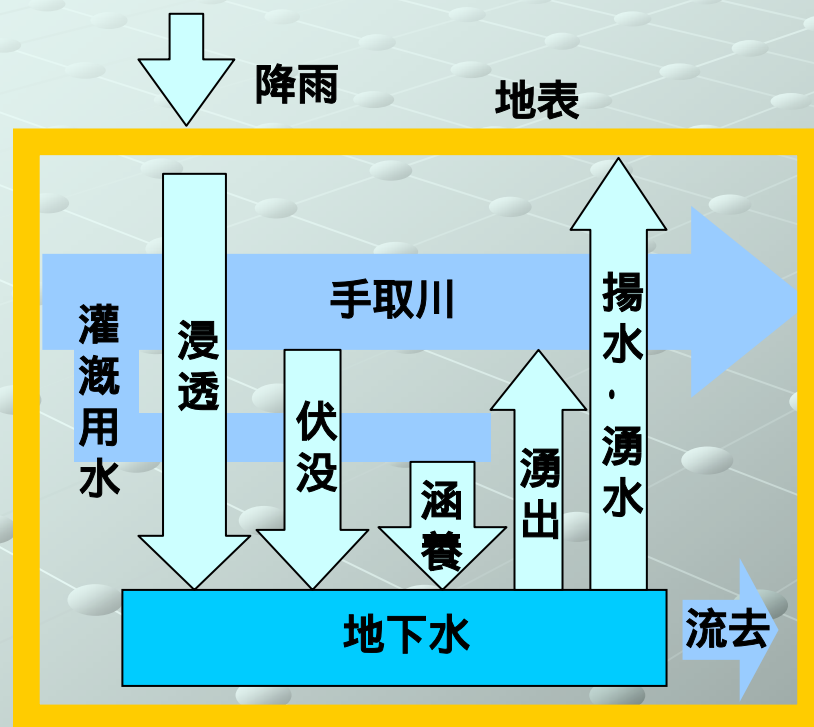


出典: 石川県統計書

事業所数の変化

扇状地の水循環

➤ 扇状地においては伏流が発生し、河川から地下水が供給されます。地下水は、農業用水や農地からも供給され、この豊富な地下水の一部は扇端部で清浄な湧水として地上に出てきます。



手取川扇状地における水循環模式図



浜清水

シロコダの水



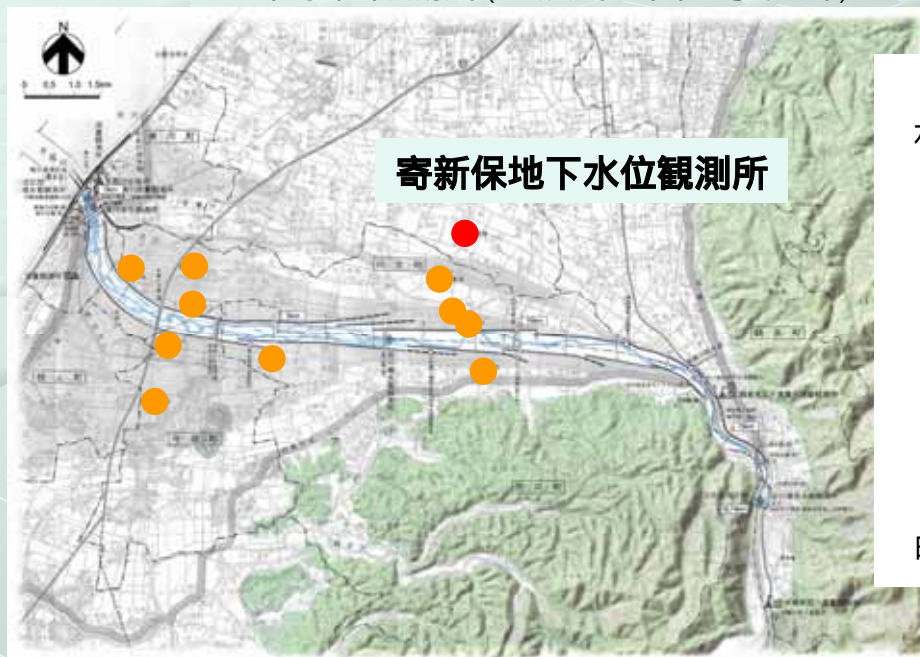
すいはの水



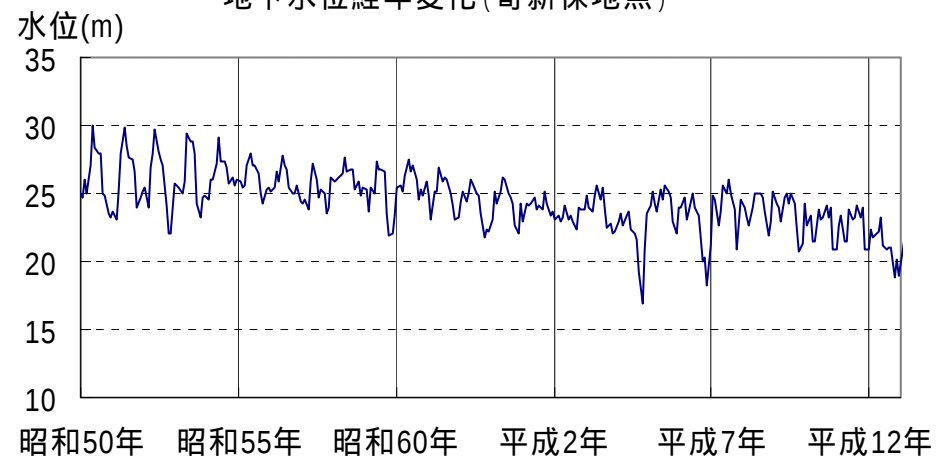
地下水位・地下水質

➤近年、地下水位は低下傾向にあります。また、地下水の水質は、近年は良好に推移しています。

地下水位観測所(金沢河川国道事務所)

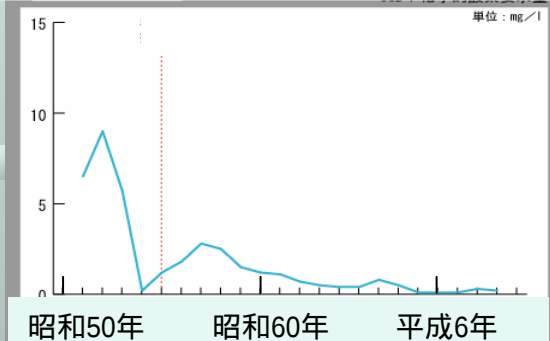


地下水位経年変化(寄新保地点)

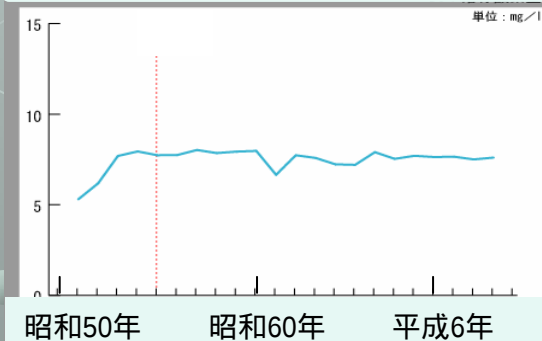


出典: 金沢河川国道事務所 手取川地下水位年表

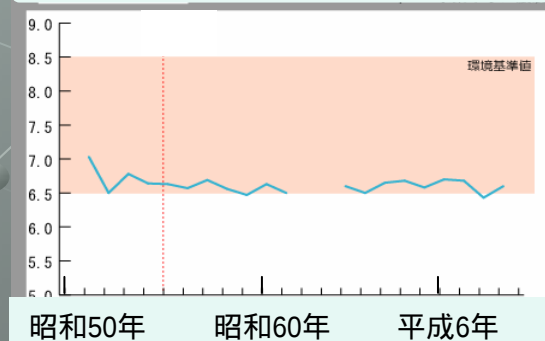
地下水質(COD)(寄新保地点)



地下水質(DO)(寄新保地点)



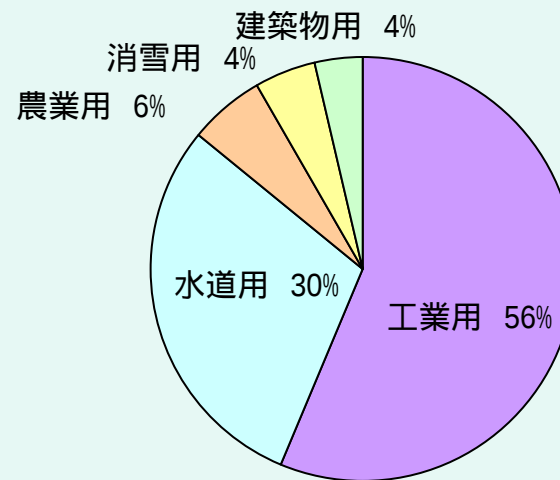
地下水質(pH)(寄新保地点)



地下水の利用

➤ 扇状地においては豊富な地下水の利用が盛んで、工業用水・水道用で約9割を占めています。

手取川扇状地目的別地下水揚水量
(平成13年)



出典:平成14年度 石川県地下水保全対策調査報告書